

令和 8 年度 戦没船員慰霊式典 戦没船員の御霊の前で海員不戦の誓い

終戦記念日の 8 月 15 日、「戦没した船と海員の資料館」がある海員組合関西地方支部の 1 階ロビーフロアで、令和 8 年度戦没船員慰霊式典が執り行われ、松浦満晴組合長をはじめ、関係者や遺族、約 70 人が参列した。

式典は、山崎秀和館長（関西地方支部長）の開式の辞で始まり、続いて主催者を代表し松浦満晴組合長が「先の大戦で無念にもお亡くなりになりました先輩諸兄 6 万 643 名の御霊に対しまして、謹んで哀悼の誠をささげたいと思います。本組合は、戦後間もない昭和 20 年 10 月 5 日、ここ神戸で再結成して以来、海の安全・海の平和、そして世界の平和を希求してまいりました。81 回目の終戦の日である本日、戦没された先輩たちの御霊の前で、あらためて海員不戦の誓いを皆さま方と共に確認したいと存じます。われわれ船員は、先の大戦を決して忘れることなく『もう二度と国家の徴用や類似する要請によって、危険な場所に赴かない』と、われわれ全日本海員組合はしっかりと心に刻み、活動を展開してまいりました。今日、幾多の困難を克服し、海洋国家日本として、平和と繁栄を享受できているのは、志半ばで海に散った戦没船員の尊い犠牲と貢献の上に築かれたものであることを忘れてはなりません。あらためて、深い哀悼の誠をささげるとともに、かけがえのない家族を失った深い悲しみに耐え、幾多の困難を乗り越えてこられたご遺族の労苦と心情に思いを致し、心から深甚なる敬意を表します。終戦から 81 年、戦争の記憶は年を追うごとに薄れていきますが、戦争の悲惨さを次の世代へと継承していかなければなりません。海洋国家日本のとこしえの平和と安全を祈念していくことをここに誓います。

本組合は『海員不戦の誓い』のもと、海の平和を希求する運動を展開してきており、ここ『戦没した船と海員の資料館』は 2000 年の開設から今年で 26 年を迎えます。これまでの関係者の皆さんの活動にあらためて敬意を表するものであります。戦争を知らない世代が大半となり、戦争を体験された方々が少なくなりつつある中で、この資料館の果たす役割はますます重要となってまいります。先輩諸氏の御霊の追悼とともに、私たちが享受する平和と繁栄が、戦没した船員をはじめとする多くの人々の尊い犠牲の上にあることを、思い起こす場所として、また、さらには戦争の悲惨さを後世へ伝え、平和の大切さを訴える貴重な場所として、本資料館がさらに充実・発展していけるよう、全日本海員組合は引き続き精一杯支援してまいります」とあいさつした。

その後、正午を知らせる「八点鐘」の鐘の音が響く中、参列者全員で黙とうをささげた。

続いて、神戸大学海事博物館の顧問を務める矢野吉治名誉教授から『太平洋戦争時の日本商船』と題する講演が行われ、式典を終了した。

「海員だより」